

松嶋夜話 卷之下 6

〔原文〕葉拱則張拱也

〔訓読〕葉拱は則ち張拱なり

〔原文〕俗以爲揖義不可也

〔訓読〕俗は揖の義と爲るは不可なり

〔原文〕只見垂拱拱手之義可也

〔訓読〕只だ垂拱、拱手の義と見て可なり

〔原文〕故禮記室中不翔

〔訓読〕故に禮記に室中に翔せず

〔原文〕注行而張拱曰翔

〔訓読〕注に行いて張拱するを翔と曰ふ

〔原文〕葉拱出書大傳

〔訓読〕葉拱は書の大傳に出ず

※『尚書大伝』：『尚書』を解釈した書籍。作者・執筆時期は完全に明らかにはされていない。
現在見られるのは輯佚本だけで、皮錫瑞が作成したものが最良である。

〔原文〕子夏葉拱而進

〔訓読〕子夏葉拱して進む

〔原文〕余以是室中張拱也

〔訓読〕余以へらく、室中に張拱するなり

〔原文〕然由家語曰

〔訓読〕然れども家語に由れば、曰く

〔原文〕師襄子避席葉拱對

〔訓読〕師襄子席を避けて、葉拱して對す

※師襄子（しじょうし）は、春秋時代の魯の国で名を馳せた音楽家（樂師）

〔原文〕兩手薄其心

〔訓読〕兩手、其の心を薄くす

〔原文〕謂是只爲叉手當胸之義

〔訓読〕謂へらく、是れ叉手、當胸の義と爲す